

豊かな心を持ち、進んで行動する生徒の育成

関中だより

令和元年 12月10日 第27号 (文責 花岡)

これは何の授業でしょうか？



机の上にタブレットがあり、何やらそのタブレットにしゃべっています。これは、英語の話す力を調べるためのテストを行っているところ。話す力といっても最近では即興力が求められ、自分で考えたことを英語で表現する力も求められています。この写真のように与えられた課題をしばらく自分で考え、自分の考えをまとめて英語で表現し、タブレットに話しかけて記憶させ、タブレットで解答を提出するというのが、今の中学生はこのような機器の扱いには慣れているので、簡単な説明で対応できるようです。いつもの言葉ですが、時代は変わりましたね。まじめに取り組む関中のみなさんの英語力がどんどん伸びていくと思います。

環境学習が行われました

シャープさんのご協力により、毎年3年生を対象に環境学習を行っています。電気を得ることが、どれだけ大変なのかを発電機を回すことにより体感し、「私たちはどのように電気を得ているのか」、「環境にやさしい方法はどうなのか」などを学びました。環境にやさしいといわれる発電方法でも、それがいつでも環境にやさしいわけでもなく、色々な角度から考えていかなければなりません。地球温暖化による気候変動が問題になっている中で、一人一人が環境のことを深く考えていくことは大事なことです。



生徒会研修会に参加しました

後期の生徒会のメンバーが、鈴鹿龜山の中学校の生徒会が参加する生徒会研修会に行ってきました。午前中は外国人生徒との交流や多文化共生について話し合い、午後はいじめ防止のとりくみについて話し合いが行われました。



(参加者の感想より)

「自分の学校のことについてや、他校の貴重な情報を聞けて、とても良い経験となりました。自分たちの学校ではやっていないことも聞けたので、それをヒントとして、自分たちも積極的に取り組みたいと思います。」

「全校生徒が学校に行きたくなる中学校をつくりたいです。そのために身近にあるいじめに目を向けて、全校生徒で考えられる場を作っていきたいと思います。」

本を読もう 考え方を変えてくれる本もあるよ

印象に残った本はなんですかと聞かれたら、いつも頭に浮かぶのが、一つは、三浦綾子さんが書いた「塩狩峠」という作品です。私は、あまり本を読むほうではなかったですが、中学校の時に読書感想文をすらすら書けた本がありました。それは、たまたま書店で手にとった本で、「塩狩峠」という本でした。その本についている帯に「衝撃のラストシーン」と大きく書いてあり、映画化されたときのS.Lの写りが載っていて、それに惹かれて思わず買ってしまったものです。もう一つは、私が20代のときに出会った漫画で、昨年度紹介したと思いますが、現在、図書室に置いてもらっている手塚治虫さんの「ブッダ」という漫画です。この二つの作品は「相手のために自分の命を使うかどうか」という究極の問いかけがある作品です。「ブッダ」は、1巻目でウサギが相手のために命を投げ出し最終巻でなぜそうしたのか？その答えがわかるといって大きな物語です。「塩狩峠」は、最後の最後にその選択を主人公が迫られます。塩狩峠で列車の最後尾がはずれて動き始めてしまった客車の中で、そこから逃げて今まで一生懸命頑張って来た自分の幸せをとるか、それとも大勢の命をとるか、これも壮絶なラストシーンでした。もし、よろしければ、ぜひ読んでみてください。

